



日頃の備え -公助- 帯広市の取り組み

帯広市では、市民の生命と財産を災害から守るために、防災に関するさまざまな取り組みを行っています。

帯広市の備蓄

災害に備え、次のような資機材などの備蓄整備を進めています。

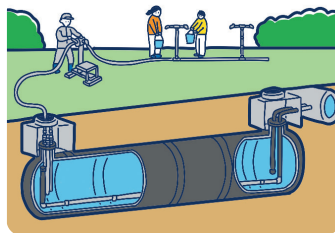
●非常用食料

被災時に食料が必要となる人数を約18,000人として、その1日分(3食)を賄う非常用食料(アルファ米、サバイバルフーズなど)を計画的に備えています。
また、乳児用のミルクなども備えています。
※アレルギー対応食の用意もあります。



●緊急貯水槽

1基当たり約100m³の貯水が可能な緊急貯水槽を市内に12基設置しています。
1基で約11,000人の3日分の飲料水(1人当たり1日3リットル)を供給できます。



●生活用品など

上下水道の被災によりトイレが使用できなくなった場合を想定して、簡易トイレ、携帯用トイレ、トイレトーパーを備えているほか、生理用品、段ボールベッド、アルミマット、毛布などを備えています。

●感染症対策用品

避難所での感染症拡大予防のため、消毒液やマスクなどを備えています。

●水防対策用資機材

水害に備え、土のう、丸太、配水ポンプなどを備えています。

●防寒用資機材

冬の災害に備え、暖房器具、毛布などを備えています。

●その他必要な資機材

民間企業や団体と防災協定を締結することで、緊急時に必要な物品や資機材を供給できる体制を整備しています。

防災意識の普及・啓発

●出前講座・親子防災講座

町内会、グループ、団体などを対象に市職員などを派遣する出前講座や、小中学生やPTAを対象とした親子防災講座を行っています。



●防災セミナー

防災意識の向上を図るため、防災活動団体の職員や、被災自治体の職員など防災の分野で活躍されている方を講師に招き、講演会を開催しています。



●防災訓練

災害に役立つ知識や技術の習得、地域における防災体制の強化などを目的として、地域防災訓練(夏季)、冬季防災訓練を開催しています。



●防災リーダー研修会

地域における防災リーダーの育成を目的として、災害に関する知識や技術を習得するための体験型講座や図上演習などの研修会を開催しています。



日頃の備え -公助- 帯広市の災害備蓄体制

帯広市では避難生活に必要な食料や毛布、日用品類を備蓄しています。備蓄品は拠点備蓄倉庫と各指定避難所の防災備蓄倉庫で保管し、災害時に使用します。

拠点備蓄倉庫

避難所が開設され、防災備蓄倉庫の資機材が不足する時や避難生活が長引く時に必要となる備蓄品を保管しています。

※大規模災害時には、国のシステムを通じて、国や道、他市町村からの救援物資も送られてきます。



防災備蓄倉庫

各指定避難所に設置し、避難所開設時及び運営初期に必要な備蓄品を収納しています。



避難の時は自分に必要なものも持参ください

帯広市でも避難時に必要な備蓄品を用意していますが、避難の時は、自分に必要な薬や身の回りのものも持参ください。(16ページ参照)